

審査項目		審査基準	配点
講座の企画運営	カリキュラム案の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕様書中の「受講修了者の到達イメージ」が実現でき、県内企業等に就業できる人材やDXを推進する人材が育成できるものとなっているか。</li> <li>プログラミングやITの知識がない者でも受講できる内容になっているか。</li> <li>プログラミングやDX推進の基礎知識の習得に留まらず、学習意欲に応じて実用的な内容まで学べるカリキュラムになっているか。</li> <li>開催方式（コンテンツの提供方法、スケジュール）は、受講者が参加しやすいものになっているか。</li> <li>受講者に教材費等の自己負担を求める場合は、適切な負担内容となっているか。</li> <li>自学自習等により受講者が更なるレベルアップを図ることができる内容となっているか。</li> </ul>	35
	効果的な講座運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者の修了に繋がる効果的な講座運営、受講環境の確保、欠席者に対する動画提供や学習が遅れている受講者への支援等、受講者へのサポートが実現できているか。</li> <li>受講者同士が励まし合い、受講者自らが意欲的に学習に取り組む工夫があるか。</li> <li>当事業と類似の事業を実施した実績のある講師を配置しているか。</li> </ul>	35
参加者の募集・広報		<ul style="list-style-type: none"> <li>県民、県内企業に広く周知できる提案になっているか、県内の関係団体等と連携した事業広報が実現できるか。</li> <li>適切なターゲット層を設定し、その層に関心を惹く提案になっているか、受講意欲を駆り立てる広報が実現できるか。</li> <li>受講者希望者向け説明会は、講座の参加意欲を掻き立てる内容になっているか、また、オンラインでの提供も含め、希望者が参加しやすい提供方法になっているか。</li> <li>受講者の選考を行う場合の体制が十分に構築されており、効果的に選考を行う工夫があるか。</li> </ul>	50
体験講座の企画運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>仕様書中の提供内容を満たした体験講座内容、参加希望者が参加しやすい提供方法がとられているか。</li> <li>オンラインコミュニティの形成により、参加者が継続的に学習できる工夫があるか。</li> </ul>	30
就業支援・県内企業との交流		<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者と県内企業が交流できる機会やサポート企業の対応窓口が確保されているか。</li> <li>受講者側が県内企業に興味を持ち、県内企業が受講者を採用したいと思える取組になっているか。</li> <li>就職・転職に関する相談窓口の設置やセミナー、企業説明会の実施等受講者に対する就業支援のサポートは十分か。</li> </ul>	30
実施体制		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の実施体制は十分か。</li> <li>当事業を実施するために必要な体制（個人情報保護の対応等も含む）が構築できているか。</li> </ul>	10
事業経費		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業経費の配分は適切か。</li> <li>経費の積算は企画内容に対して妥当か。</li> </ul>	10
合 計			200